開幕まであと８９日！

愛知県政記者クラブ
名古屋市政記者クラブ
岡崎市政記者会、岡崎新聞記者会
中部芸術文化記者クラブ　　同時発表

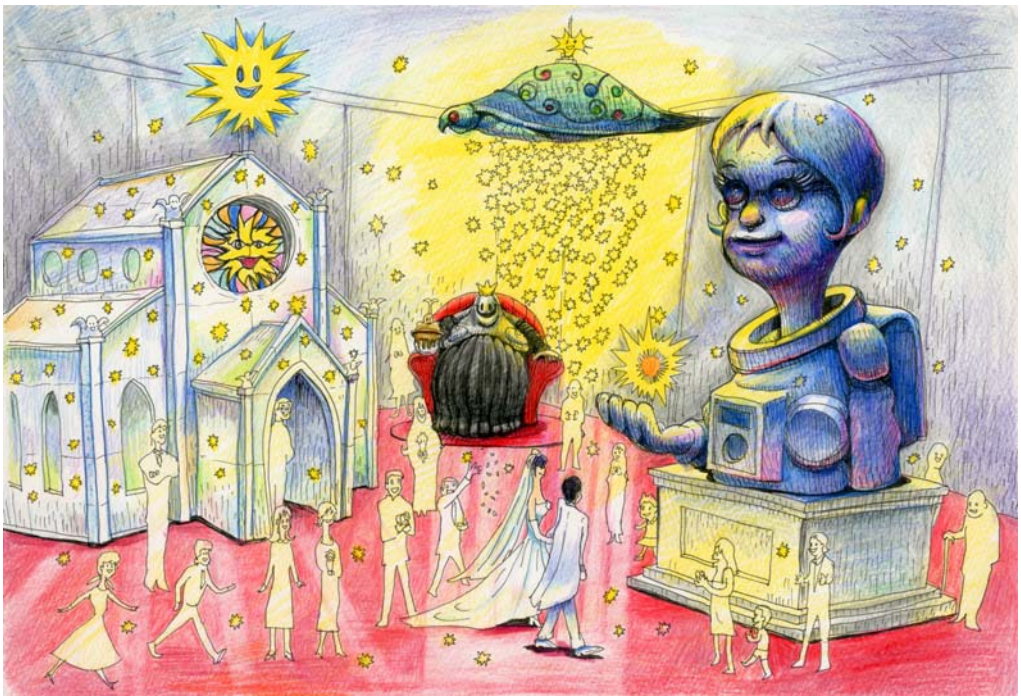
平成 25 年 5 月 13 日(月)
愛知県県民生活部 文化芸術課
国際芸術祭推進室 事業第一G
担当：森岡、小柳津
電話：052-971-6127
内線：724-680、682

# “愛を知る” 愛知県で愛を誓う
# あいちトリエンナーレ2013 ヤノベケンジ新作 《太陽の結婚式》にて
# 挙式するカップルを募集します

あいちトリエンナーレ 2013 でヤノベケンジ氏が展開する新プロジェクト《太陽の結婚式》の展示空間で、会期中（平成 25 年 8 月 10 日（土）～10 月 27 日（日））に、実際に結婚式を挙げるカップルを募集いたします。

本プロジェクトでは、東日本大震災を機に「希望、再生、復活」をテーマに制作した新作の胸像《ウルトラ・サン・チャイルド》を中心に、煌びやかな亀型のシャンデリア《幻燈夜会（ファンタスマゴリア)》、花嫁のための着衣室《クイーン・マンマ》など、ヤノベケンジ氏を代表する作品群を展示いたします。さらに、美術館の中に教会を制作し、挙式を希望するカップルが実際に結婚式も執り行います。

結婚式を盛大に行うことで知られる名古屋らしく、“愛を知る”あいちトリエンナーレでしかできない壮大で絢爛なプロジェクトになります。



《太陽の結婚式》イメージドローイング　© YANOBE Kenji

## １　作品タイトル

《太陽の結婚式》

## ２　展示場所

愛知芸術文化センター１０階　愛知県美術館

## ３　展示期間

平成２５年８月１０日（土）～１０月２７日（日）

## ４　挙式日時

上記期間中で、カップルが希望する日時（挙式時間：約１時間）

※挙式時間帯　①10：00－12：30　②12：30－15：00　③15：00－17：30

## ５　結婚式募集要項

応募資格：結婚式を挙げる予定のカップルで、ブライダル会社の提示した契約書に同意できる方。入籍、未入籍は問いません。（年齢制限なし）

参列者定員：８０人まで

※結婚式の内容によって実費が必要となります。（ドレスレンタル料など）

## ６　募集期間

平成２５年５月１３日（月）～１０月１３日（日）

※スケジュールが埋まり次第締め切りとなります。

## ７　申込み先

ブライズ・ビレッジ／太陽の結婚式窓口　０５２－２０９－９０５５

**作家プロフィール：ヤノベケンジ（YANOBE Kenji）**

1965 年大阪生まれ。大阪と京都を拠点に活動。幼少のときに体験した大阪万博の跡地、すなわち「未来の廃墟」を創作活動の原点と位置づけ、サブカルチャーによる造形美と物語性とを巧みに織り交ぜながら、ロボットや生活必需品などの大型機械彫刻を制作。90 年代は、ガイガー・カウンターを装備した《アトムスーツ》を自ら着用し、原発事故後のチェルノブイリを訪れるなど、世紀末的なサバイバル・プロジェクトで注目を集めた。2010 年発電所美術館での「ミュトス」展では、天井に吊り下げた水瓶に 5t の水をしたため一気に放出するインスタレーション《大洪水》を手がけ、予言的なまでに時代に鋭く斬り込む作品で人々を震撼させた。そして東日本大震災後、希望のモニュメントとして、防護服のヘルメットを脱いだ 6m の子ども立像《サン・チャイルド》を発表し、太陽の塔の広場や第五福竜丸展示館、モスクワやイスラエルなどの世界規模で巡回を続けている。

＜参考資料①＞

展示プラン　※２０１３年３月現在、展示プランの一部

②《クイーン・マンマ》2002

イッセイ・ミヤケとのコラボレーションによって 2002年に生まれた《クイーン・マンマ》は着衣室でもある。まるで母胎内を再体験するかのように《クイーン・マンマ》の中へと入り、衣裳をかえて生まれ変われる、新たな人生を歩み始める花嫁のための部屋。

①《太陽の神殿/サン・チャイルド島》大聖堂の構想模型 2012

あいちトリエンナーレ2013では、神像をイメージした最新作《ウルトラ・サン・チャイルド》が大聖堂のシンボルとなって登場予定。さまざまな動物の形に掘られた参列椅子に座り、ここを訪れる誰もが新郎新婦を祝福することができる。

③《幻燈夜会（ファンタスマゴリア）》2007

太陽を掲げる亀型のシャンデリアから、無数の小さな小さな太陽が降り注ぐ。また、トらやんの冒険物語が影絵となって空間いっぱいに写し出される、幻想的な光と影のインスタレーション作品《ファンタスマゴリア》の部屋。絵本によって綴られた「トらやんの大冒険」の終着地とも重なる「サン・チャイルド大聖堂」の前室。

④《ラッキー・ドラゴン 構想模型》2012

＜参考資料②＞

**ヤノベケンジ氏による作品コンセプト**

あいちトリエンナーレ 2013 において、愛知県美術館の内部に教会を制作しそこで結婚式を行なう。

それはそもそも神や宗教の伝達装置としての教会に始まり、そこから派生し分離していった美術や美術館から、美の起源に遡る行為でもある。

20 世紀美術を中心にコレクションされている愛知県美術館、また結婚式を専門とした教会（結婚式教会）が全国で一番多い愛知（愛を知る）においてもっとも適したプロジェクトであると言える。

20 世紀美術はほとんど神は描かれない。また、結婚式教会において結婚するカップルにクリスチャンの割合は極めて低い。しかし互いに美に帰依しているということでは共通していると言える。

この結婚式においても、神ではなく美に愛を誓うことになるだろう。しかしそもそも神、愛、美は同根のものである。結婚式をすることで美の起源を再確認することができるだろう。

その際、美術館内に設置された小さな教会には愛知県美術館のコレクションから、「愛」について描かれた作品を展示したい。

アンリ・マティスの『ロンサール恋愛詩歌集』の挿絵として描かれたリトグラフである。この作品は、16 世紀のフランスの叙事詩人のテキストの中から自分の好きな詩を選び、126 のデッサンを描き下ろしたものである。

絵画自体は 1941 年から 43 年にかけて描かれたが、テキストが印字され、出版されたのは 1948 年である。1948 年と言えば、マティスの集大成とも言える最晩年の作品、ヴァンスにある『ロザリオ礼拝堂』が制作された時期と重なる。

生命の樹を表す切り絵から作られた単純な形態、青（空）、緑（植物）、黄（光）という厳選された色によるステンドガラス、奥の壁面には白いタイルに単純な黒の輪郭線で描かれたキリストの苦難の歴史。そこに太陽の光が差し込んで初めて教会に命が吹き込まれる。太陽と地上による婚姻がそこで結ばれる。

マティスの恋愛から永遠の愛を誓う教会建設の変遷をなぞりつつ、同じく黒い輪郭線のみで描かれた『ロンサール恋愛詩歌集』を壁面に飾り、光によってそこに愛と美を浮かび上がらせることを試みる。

20 世紀最大の画家の 1 人であり、根源の美に辿り付いたマティスを参照し、同じく太陽をテーマにし続けている私ヤノベケンジが、新たな太陽を美術館に吹き込み、美と愛を体現する教会、結婚式を企画したい。